

自閉症のある生徒の主体的に活動する態度をはぐくむ学習支援を目指して

～ 「自立活動」の視点を取り入れた実態把握と学習指導を通して ～

宮崎県立延岡しろやま支援学校

教諭 今村 昭仁

目 次

I	研究主題	5-1
II	主題設定の理由	5-1
III	研究目標	5-1
IV	研究仮説	5-2
V	研究計画	5-2
VI	研究構想	5-3
VII	研究の実際	5-4
1	研究の基本的な考え方	5-4
2	「指導・支援」と「主体的な態度」について	5-4
3	理論研究	5-4
(1)	自閉症の特性、発達の段階、「自立活動」の視点を取り入れた「実態把握表と指導目標・支援内容表」の考え方	5-4
(2)	「実態把握表と指導目標・支援内容表」について	5-5
(3)	「自立活動」と他教科との関連図	5-7
4	事例研究	5-7
(1)	検証授業Ⅰの実際	5-7
(2)	検証授業Ⅱの実際	5-13
(3)	モニタリングによる「実態把握表と指導目標・支援内容表」の検証	5-17
(4)	検証授業とモニタリングによる「実態把握表と指導目標・支援内容表」の改善	5-19
5	「実態把握表と指導目標・支援内容表」の活用	5-19
VIII	研究の成果と課題	5-19
1	成果	5-19
2	課題	5-20
	《引用文献・参考文献》	5-20

I 研究主題

「自閉症のある生徒の主体的に活動する態度をはぐくむ学習支援を目指して」

～「自立活動」の視点を取り入れた実態把握と学習指導を通して～

II 主題設定の理由

我が国が目指すべき社会の姿として、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会がある。本県においては、第二次宮崎県教育振興基本計画の施策に「共生社会を目指す特別支援教育の推進」が示されており、内容の一つとして「地域における教育・指導システムの充実と教員の指導力の向上」が掲げられている。この施策を受けて、特別支援教育の充実を図るためには、専門性を高め、障がいの特性を踏まえた学習指導等の質を更に高めていかなければならない。また、障がいの多様化が進む中で、今後、県民全体に対し障がいのある児童生徒の特性等の理解・啓発を図り、卒業後の自立と社会参加へ向けての協力を得ることも必要である。

宮崎県立延岡しろやま支援学校は、今年度より、肢体不自由教育部門、聴覚障がい教育部門、知的障がい教育部門を統合した県内初の総合特別支援学校として開校した。児童生徒が高等部卒業後に共生社会の中でたくましく生きていくために、キャリア教育等をもとに幼稚部（聴覚教育部門のみ）から高等部（肢体教育部門・知的障がい教育部門のみ）までの一貫した教育課程の再編成を行っている。学校の教育目標は、「心豊かでたくましく地域社会で生きぬく力を育成する」であり、知的障がい教育部門の特色として「自閉症の専門的な指導に関する研究の実施～自閉症のある児童生徒が主体的に学習や活動へ取り組む環境を目指して～」がある。これまで、(旧)宮崎県立延岡たいよう支援学校においても自閉症教育の実践は行ってきたが、今後、さらに、自閉症に関する障がいの特性の理解や学習指導方法等の専門性を高めていくことが求められており、前述した知的障がい教育部門の特色は、本校の研究課題としても位置付けられている。

自閉症のある生徒の主体性を高めるには、「自立活動」の視点ときめ細かな配慮をもって学習指導にあたることが重要である。新学習指導要領の「自立活動」の区分は、これまでの「健康の保持」「心理的な安定」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の5区分に「人間関係の形成」が新たに加わり6区分となった。この6区分26項目の中には、「自閉症に関する具体的指導内容例と留意点」が示されているものもある。

そこで、本研究では、まず、高等部3年の自閉症のある生徒を対象に「自立活動」の視点と障がいの特性や発達の段階を考慮した実態把握を行い、この実態把握の結果をもとに、自閉症の特性と発達の段階、「自立活動」の視点を取り入れた「実態把握表と指導目標・支援内容表」を作成し、生徒の主体的な態度をはぐくむことを目指していくこととした。今後は、この「実態把握表と指導目標・支援内容表」が、自閉症のある児童生徒に対する学習指導・学習支援の参考となり、学級担任以外でも活用できることを目指していきたい。

本研究が、地域の教育機関や福祉機関、また家庭等において、自閉症のある児童生徒への教育の課題解決の一助となり、本県が目指す共生社会を生き抜く児童生徒を育てることにつながると考え、本研究主題を設定した。

III 研究目標

「自立活動」の視点を取り入れた各教科等の指導目標・支援内容を検討していくことにより、学習指導・学習支援の質の向上を図って、共生社会を生き抜くための力を育成していく。

Ⅳ 研究仮説

自閉症の特性や発達の段階を踏まえた実態把握を行い、「自立活動」と関連付けた学習指導を行えば、自閉症のある生徒の主体的な態度をはぐくむことができるであろう。

Ⅴ 研究計画

月	研究内容	備 考
4	○ 研究主題・副題、研究仮説、研究内容、主題研究年間計画の設定	
5	○ 研究主題・副題、研究仮説、研究内容、主題研究年間計画の作成 ○ 検証授業Ⅰの構想（学習指導案検討） ○ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」検討・作成	
6	○ 第1回「実態把握表と指導目標・支援内容表」による実態把握の試行（モニタリング） ○ 検証授業Ⅰの事前準備（学習指導案、教材資料等の作成）	
7	○ 検証授業Ⅰの実施及び評価・検証（備考参照） ○ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」の評価・検証・改善 ○ 検証授業Ⅱの構想①（学習指導案検討） ○ 主題研究グループ協議会準備（資料作成）	7月2日 実施
8	○ 主題研究グループ協議会（備考参照） ○ 第2回「実態把握表と支援内容表」による実態把握の試行（モニタリング） ○ 検証授業Ⅱの事前準備（学習指導案作成） ○ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」の評価・改善	8月28日 実施
9	○ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」の検討・改善 ○ パンフレットの構想・作成 ○ 検証授業Ⅱの事前準備（学習指導案、教材資料等の作成）	
10	○ 検証授業Ⅱの実施及び評価・検証 ○ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」の検証・改善 ○ パンフレットの作成 ○ 中間発表の準備（資料作成）	10月1日 実施
11	○ 中間発表、中間発表の助言等を受けて研究理論の整理、研究の成果と課題の整理 ○ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」の改善 ○ パンフレットの作成	11月19日 実施
12	○ 研究の成果と課題についてのまとめ ○ 研究報告書の作成 ○ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」 ○ パンフレットの完成	
1	○ 研究報告書の作成・起案 ○ 研究発表会準備（資料作成）	
2	○ 宮崎県教育研究機関連絡協議会研究発表大会 ○ 研究報告書作成、パネル作成	2月8日 実施
3	○ 研究発表会 ○ 研究報告書製本、パネル完成	3月12日 実施



Ⅶ 研究の実際

1 研究の基本的な考え方

「自立活動」の視点を取り入れた実態把握について

○ 障害のある幼児児童生徒の場合は、その障害によって、日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じることから、小・中学校等の幼児児童生徒と同じように心身の発達の段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えない。そこで、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となる。このため、特別支援学校においては、小・中学校等と同様の各教科等のほかに、特に「自立活動」の領域を設定し、その指導を行うことによって、幼児児童生徒の人間としての調和のとれた育成を目指しているのである。

(「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」より抜粋)

上記の「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」から、本研究においては、自閉症の特性、発達の段階、「自立活動」の視点を取り入れた実態把握より、自閉症のある生徒が自ら主体的に活動する態度をはぐくむ力を高めていくための指導目標・支援内容の研究を行う。

2 「指導・支援」と「主体的な態度」について

(1) 自閉症のある児童生徒の「指導目標・支援内容」

本研究における「指導」と「支援」は、下記のとおりに定義する。

ア 「指導」： 長期目標を達成できるように、児童生徒の発達の段階等の実態に応じた力をつけること。

イ 「支援」： 児童生徒を様々な視点から理解し、長期目標の達成に向けて環境等を整えること。

(2) 自閉症のある児童生徒の「主体的な態度」

本研究における「自閉症のある児童生徒の主体的な態度」については、以下のとおりに定義する。「実態把握表と指導目標・支援内容表」に示す「指導目標」の各段階の達成を目指して、自分から行動し、さらには、一部支援を受けながら、地域社会等へ参加が可能になっていくこと。

3 理論研究

(1) 自閉症の特性、発達の段階、「自立活動」の視点を取り入れた「実態把握表と指導目標・支援内容表」の考え方

ア 「実態把握表と指導目標・支援内容表」の作成

(ア) 「自立活動」6区分26項目を自閉症の特性に対応させるための項目の検討

「実態把握と指導目標・支援内容表」では、「自立活動」6区分26項目を自閉症の特性に合わせて検討し、各区分を10項目に整理する。検討した項目を長期目標として設定することで、個別の指導計画、個別の教育支援計画等に活用できることを目指していく。

(イ) 「指導目標」「支援内容」の設定

本研究では、「実態把握表と指導目標・支援内容表」において、「指導目標・支援内容」を「各段階の内容の柱」をもとに検討し設定する。

(ウ) 「レーダーチャート」による表記

「レーダーチャート」に表記したのは、児童生徒の全体像を捉えるために、児童生徒の「自立活動」において得意とする区分を伸ばし、また不得意とする「自立活動」の区分を

伸ばしていく指導・支援の視点がもてるようにするためである。

(エ) 「他の項目との関連」の設定

「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」の記載事項を整理する。支援者が、他の項目との関連を取り入れた学習指導・支援内容を行い、様々な視点から児童生徒の実態や指導目標・支援内容の達成を目指していく。

(オ) 「およその必要な発達の段階の力」の設定

自閉症の特性と発達の段階を踏まえた支援を行うために、各項目に示す長期目標達成のために必要な発達の段階の力を「およその必要な発達の段階の力」として、記載する。

記載例は、「5歳0ヶ月」の場合、「5：00」と記載する。

(カ) 「モニタリング」の実施

「実態把握表と指導目標・支援内容表」のモニタリングを宮崎県立しろやま支援学校や宮崎県教育研修センター研究員の協力を得て行い、意見等を集約していく。

(キ) 「パンフレット」の作成

小・中学校等や初めて特別支援教育に携わる支援者が、活用できるようにするために、「実態把握表と指導目標・支援内容表」から「支援内容」と「他の項目との関連」を省き、別冊のパンフレットとして、支援内容の説明と写真やイラスト等を加えて作成する。

(資料①)

(2) 「実態把握表と指導目標・支援内容表」について

ア 「実態把握表と指導目標・支援内容表」の活用

「実態把握表と指導目標・支援内容表」は、表計算ソフトを使用して作成した。これを活用しやすくするために、特別支援学校等の協力を得て、「実態把握表と指導目標・支援内容表」を使用して、活用についての意見を出してもらうモニタリングと、所属校における生徒への検証授業、事前事後の検証により改善を行った。改善した「実態把握表と指導目標・支援内容表」の内容については、「長期目標」を新学習指導要領から自閉症のある生徒に関連する記述を整理し60項目にまとめた。さらに他の項目との関連も整理し記載している。そして長期目標の達成に向けた指導目標・支援内容を3段階に分けて設定した。検討した「自立活動」の6区分に関する「指導目標」「支援内容」等を表計算ソフトのシートに入れて、児童生徒が各指導目標を達成している場合、「1」と入力するようにした。これまで作成されていた「実態把握表」には、自立活動の視点から長期目標や指導目標・支援内容を段階毎に取り入れているものはない。

本研究においては、「実態把握表と指導目標・支援内容表」に、長期目標の達成に向けた指導目標を180項目、それに対応した支援内容を180項目、それぞれ「自立活動」の視点から設定した。その際、「指導目標 支援内容」における「各段階の内容の柱」の検討も行い、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成等にいかせるようにした。(資料②③)

イ レーダーチャートと3段階の指導目標・支援内容

「実態把握表と指導目標・支援内容表」では、指導目標・支援内容の分析結果をレーダーチャートに表記し、支援者が、「自立活動」の6区分の視点から児童生徒の特徴をすぐに捉えられるようにした。さらに、モニタリングの意見をもとに、①～③段の各段階の達成毎に「1」と入力できるようにした。また、児童生徒の実態によっては、長期目標が該当しない場合もあり、その場合は、指導目標①～③段階の全てに「1」と入力し達成したものとして扱い、

レーダーチャートに児童生徒の特徴がよりきめ細かく表れるように改善した。(資料③)

【資料①：小・中学校等用の「実態把握表と指導目標表」(上)とパンフレット(下)】

区分	項目	長期目標		「長期目標」達成に向けての指導目標・支援内容	1学期	2学期	3学期
1	健康 健康の保持	(1)	指導目標	① 支援者が手本を示して、模倣しながら手洗い、うがいをすることができる。			
・ 手洗い、うがいをすることができる。				② 言葉掛けや視覚支援教材を見ながら、手洗い、うがいをすることができる。			
③ 手洗い、うがいをすることができる。							

自立活動の視点を取り入れた支援内容表



～自閉症のある児童生徒の自立と社会参加を目指して～

1 健康（健康の保持）の支援内容例			
長期目標	「手洗い、うがいをすることができる。」		
他の項目との関連	「4 場面や状況などを把握する力（環境の把握）」 「5 からだの動き（身体の動き）」		
指導目標①段階	支援者が手本を示して、模倣しながら、手洗い、うがいをすることができる。		
支援内容①段階	手洗い、うがいの動きのやり方の手本を示す。		
支援内容①の例	支援内容①の例について	児童生徒の実態に応じて記載	
支援者が児童生徒に手本を示す。	- 児童生徒に模倣させる場合、支援者は、児童生徒の横にいて、過敏を配慮しながら手を添えて、支援する。 - 児童生徒と対面して模倣させる場合、支援者と同じ手で手洗いやうがいをすることがあるので、支援者は、児童生徒の鏡となるようにする。		
指導目標②段階	言葉掛けや視覚支援教材を見ながら、手洗い、うがいをすることができる。		
支援内容②段階	手洗い、うがいをするように言葉掛けや視覚支援教材を作成し示す。		
支援内容②の例	支援内容②の例について	児童生徒の実態に応じて記載	
 【手洗いカード】	掲示する視覚支援教材については、左記写真の下の説明文は、児童生徒の実態に応じて、平仮名のみにするなどの表記の工夫をする。		
指導目標③段階	手洗い、うがいをすることができる。		
支援内容③段階	学校や家庭で確実に伝えるように、手洗い、うがいをしたかどうかを振り返られるようにチェックシートなどを作成し、児童生徒がチェックできるようにする。		
支援内容③の例	支援内容③の例について	児童生徒の実態に応じて記載	
 【チェックシート】	児童生徒にチェックシートを使用させる場合、最初は、支援者が実際に「○」などの記入の仕方を示す。		

【資料②：各段階の内容の柱】

段 階	各 段 階 の 内 容 の 柱
①段階	支援者のやり方等の手本を見て模倣することができる段階
②段階	言葉掛けや視覚支援教材等を利用しながら活動を行うことができる段階
③段階	必要な支援を受け、自立し主体的に社会参加することができる段階

【資料③：改善前・改善後の「実態把握表と指導目標・支援内容表」】

○ 改善前の「実態把握表と指導目標・支援内容表（一部抜粋）」

区分	項目	長期目標	1学期	2学期	3学期	およその必要な発達 の段階の力	「長期目標」達成に向けての指導目標・支援内容	他の項目 との関連
健康 健康の保持	(1)	・ 手洗い、うがいをする ことができる。	1			※5:00	指導目標 ・ 支援者が手本を示して、模倣しながら、手洗い、うがいをするができる。 ・ 言葉掛けや視覚支援教材を見ながら、手洗い、うがいをするができる。 ・ 自分で手洗い、うがいをするができる。 支援内容 ・ 手洗い、うがいのやり方を示す視覚支援教材を掲示する。	5 4 身 体 環 境 の 動 き 握

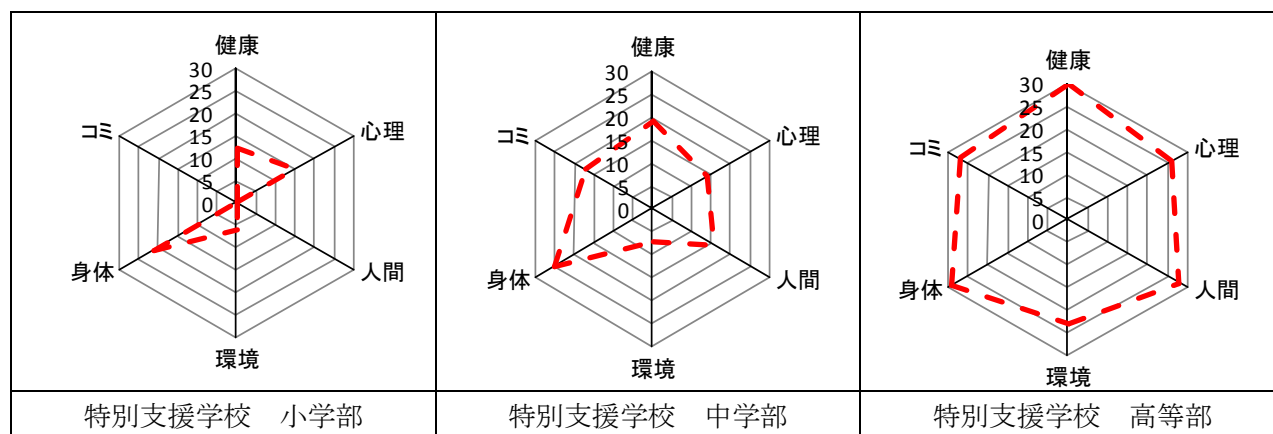
次年度以降記載

※表中の5:00は5歳0ヶ月を示す。

○ 改善後の「実態把握表と指導目標・支援内容表（一部抜粋）」

区分	項目	長期目標		「長期目標」達成に向けての指導目標・支援内容	1学期	2学期	3学期	他の項目 との関連
1 健康 健康の保持	(1)	・ 手洗い、うがいをする ことができる。	指導目標	① 支援者が手本を示して、模倣しながら手洗い、うがいをするができる。 ② 言葉掛けや視覚支援教材を見ながら、手洗い、うがいをするができる。 ③ 手洗い、うがいをするができる。	1 1			5 3 身 体 人 間 関 係 の 形 成
			支援内容	① 手洗い、うがいの動きのやり方の手本を示す。 ② 手洗い、うがいをするように言葉掛けや視覚支援教材を作成し示す。 ③ 学校や家庭で確実にできるように、手洗い、うがいをしたかどうかを振り返られるようにチェックシートなどを作成し示す。				

○ レーダーチャートによる表記



(3) 「自立活動」と他教科との関連図

「自立活動」の関連図を作成し、支援者間で、他教科にも「自立活動」の視点を取り入れることを共通理解できるようにする。(資料⑦ p5-9)

4 事例研究

(1) 検証授業Ⅰの実際

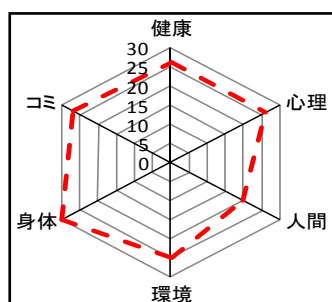
ア 学級担任による実態把握

検証授業Ⅰを実施するにあたり、まず、事前に学級担任が「実態把握表と指導目標・支援内容表」を使って、生徒Eの実態把握を行う。

イ 生徒Eのレーダーチャートと分析

対象生徒のレーダーチャートの結果が、資料④である。生徒は、「身体の動き」には、問題がないため、板書などの身体的活動を取り入れて賞賛をする。「コミュニケーション」につい

ては、ルールカードを利用する。「心理的な安定」「人間関係の形成」の課題は、T1（教員）が生徒の様子を観察しながら、適切に言葉掛け等の支援を行っていく。



【資料⑤：レーダーチャートに見る対象生徒 E の全体像】

レーダーチャート内の「健康～コミ」の表記	
健康：健康(健康の保持)	心理：気持ちなどの内面(心理的な安定)
人間：人とのかかわり(人間関係の形成)	環境：場面や状況などを把握する力(環境の把握)
身体：からだの動き(身体の動き)	コミ：人とかかわるための手段(コミュニケーション)

ウ 授業の構成

授業の構成を下記の通りとし、生徒の意欲や主体的な活動を導くようにした。(資料⑥)

【資料⑥：授業の構成】

	指導目標	支援内容
導入	・ 情緒を安定させ、T1 と生徒間に信頼感をもてるようにする。	・ 簡潔な言葉掛けや視覚支援教材などによる目標の提示を行う。
展開①	・ 生徒の自己肯定感を高め、活動における役割を与え、存在意識をもたせ、学習意欲を高めさせる。	・ 生徒の言動を観察し、よいところを賞賛し、自己肯定感を高めるようにする。
展開②	・ 課題意識を高める。 ・ 生徒が課題に対して気づき、課題解決する。	・ 学習目標にせまるように言葉掛けをする。 ・ 自分または友だちと考え、気づき、判断させる。
終末	・ お互いの意見を聞きあい、認め合う。	・ 各生徒の本時の活動を賞賛し、生徒同士がお互いを認め合うようにさせる。

生徒の主体性を高める支援方法として、「① 教師が手本を示す」「② 視覚支援教材の提示をする」「③ ①、②から生徒たちの主体的な活動へと導く」という支援の流れで行う。各学習活動にルールカードを提示し、生徒たちがルールカードを見ながら主体的に活動したり、読むことが困難な生徒には、生徒同士で教え合ったりできるように支援する。周りの支援を受けながら、自立し主体的に生きる力を身に付けることができるようにしていく。

エ 授業の概要

高等部 3 年（通常学級） 各教科等を合わせた指導「生活単元学習」

【单元名】

「自分のよいところとこれから努力することを知ろう」

【本時の目標】

- 自分のよいところを考えたり、友だちのよいところを考えたりすることができる。

【思考・判断・表現】

- グループでの話し合いの中で、自分の意見を伝え、友だちの意見を聞いたりすることができる。

【技能】

- 自分のよいところとこれから努力することを理解することができる。

【知識・理解】

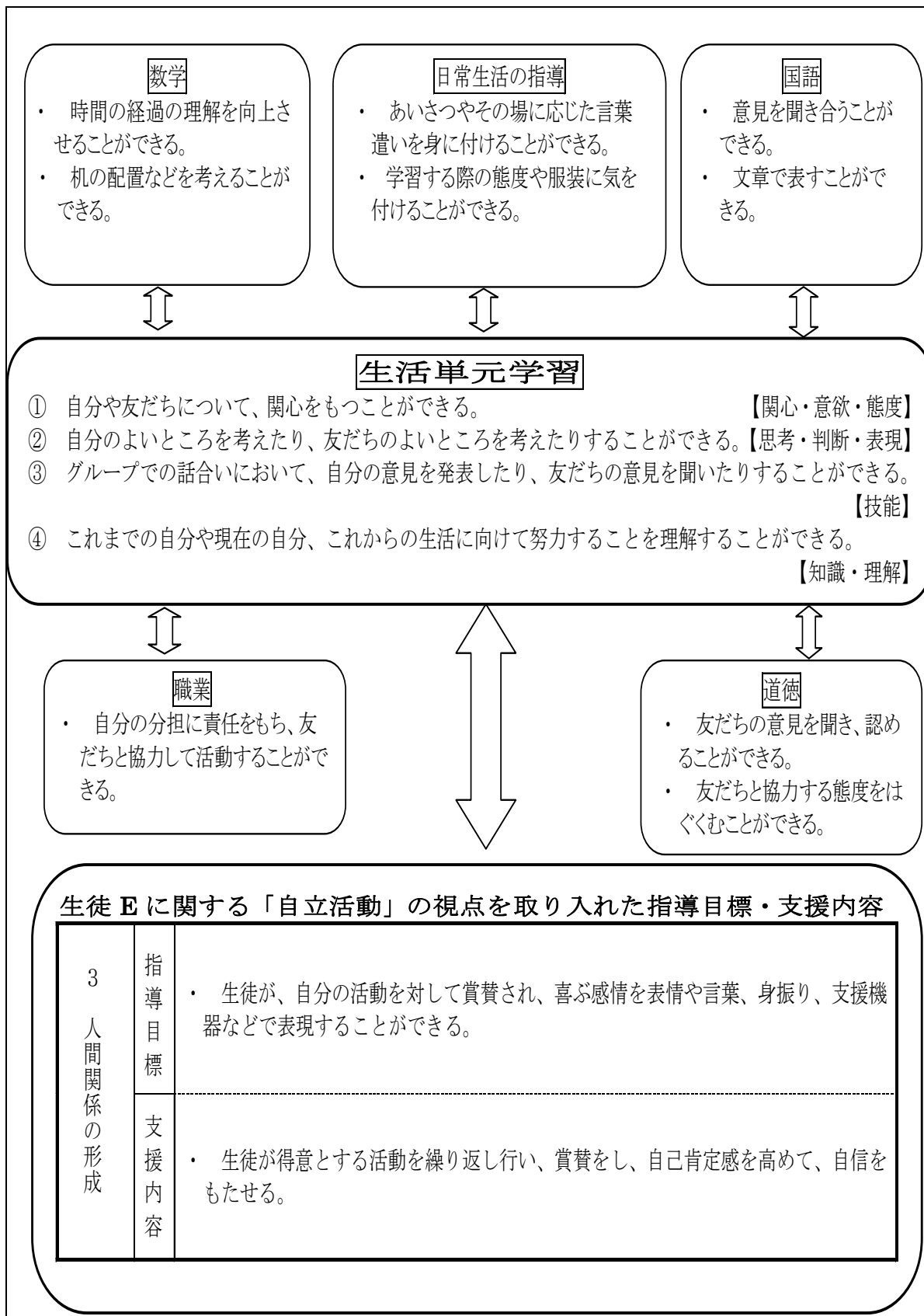
【本時の授業仮説】

本単元の目標達成に向けて、自立活動の「人間関係の形成」の視点を取り入れた指導・支援を行えば、生徒の人とのかかわる力や主体性を向上させていくことができるであろう。

オ 検証授業Ⅰで取り扱う生活単元学習と「自立活動」、他教科との関連図

「自立活動」と他教科との関連図を以下の通りとして、共通理解をもって、「自立活動」の視点を取り入れた学習支援を意識できるようにした。また、他教科における「自立活動」の視点を取り入れた学習支援の参考として生かしていく。(資料⑦)

【資料⑦：生徒 E への身に付けさせたい力に関する「自立活動」と他教科との関連図】



カ 検証授業Ⅰにおける対象生徒 E への「指導目標・支援内容」(資料⑧)

資料⑧は、授業の目標を達成するための指導目標・支援内容の分析と検討方法である。

【資料⑧：対象生徒 E に関する本時の目標と「自立活動」における支援内容】

a 「実態把握表と指導目標・支援内容表」から読み取る生徒 E に関する自立活動における個別の目標

(a) 生徒 E についての本単元に該当する「区分」など

- ・ 「区分」について：人間関係の形成
- ・ 「内容」について：自分の得意なことや不得意なことがわかる → **本時の目標**
- ・ 「内容」達成に向けての学習指導内容・学習支援内容について

指導	1 段階	自信をもって取り組める活動がある。
	2 段階	児童生徒が、自分の活動に対して賞賛され、喜ぶ感情を表情や言葉、身振り、支援機器などで表現することができる。
	3 段階	自分の得意なものと不得意なものを理解して、言葉や身振り、支援機器などで表現することができる。
支援	・ 児童生徒が得意とする活動を繰り返し行い、賞賛し、自己肯定感を高めて、自信をもたせる。 ・ 児童生徒が、不得意な活動を行う場合は、教員がいつでも支援を受け止めることができるようにする。	

(b) 生徒 E の「内容」：「自分の得意なことや不得意なことがわかる。」の達成状況について

生徒	達成	目標達成に向けての達成状況
E	未達成	2 段階： 生徒が、自分の活動に対して賞賛され、喜ぶ感情を表情や言葉、身振り、支援機器などで表現することができる。

(c) 目標設定の分析 アー(ア)、アー(イ)より、生徒 E の自立活動における個別の目標を設定

長期目標	・ 自分の得意なものと不得意なものを理解して、言葉や身振りで表現することができる。
短期目標	・ 生徒が、自分の活動を賞賛され、喜ぶことができる。

※ 短期目標を本時の目標に対応させていく。

b 本時の目標と自立活動における支援内容の設定について

「実態把握表と指導目標・支援内容表」からの目標や支援を本時に合うように検討し、下記のように設定した。

氏名	本時の目標	本時の自立活動の支援内容
E	・ 自分のよいところを友だちから聞いて発表することができる。 ・ 視覚支援教材を通じて、活動することができる。 ・ 主体的に書いたり発表したりすることができる。	・ 生徒 E が発言する内容などを賞賛し、自己肯定感を高めて、自信をもたせる。 ・ 生徒 E のよいところを賞賛し、自分のよいところについての理解を向上させる。

c 生徒 E の特性に応じた「実態把握表と指導目標・支援内容表」から読み取る本時の目標と自立活動の視点を取り入れた支援内容について

○ 対象生徒 E に関する本時の目標

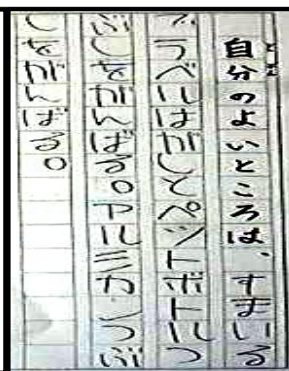
生徒	単元に関する目標	支援内容
E	<u>教員の言葉掛けのもと、視覚支援教材を見ながら、自分史を整理し、これまでの自分や現在の自分、これからの生活に向けて努力することを理解することができる。</u> <u>言葉や身振りを使って、発表の場に応じた声の大きさと言葉遣いで話すことができる。</u>	生徒 E は、「実態把握表と指導目標・支援内容表」から、本単元の目標として「コミュニケーション」の項目(5)「その場の状況に応じた言葉遣いをするのが困難であり」、「環境の把握」項目の「(2)整理整頓を行うのが困難であり」が、本時の目標に適切であるとして設定した。 <u>発表の方法を教員の手本と視覚支援教材で提示し、理解できるようにする。</u> <u>自分史のモデルを提示し、これまでの自分や現在の自分、これからの生活に向けて努力することを理解できるようにする。</u>

「実態把握表と学習指導内容・学習支援内容表」の該当する項目から記載する。

以上の視点を取り入れて、主体的に活動するための支援を行う。

主体的に活動することができる。

キ 検証授業 I の様子

時間	学習内容 及び学習活動	個人別、全生徒の学習活動と指導上の留意点								資料・ 準備物
		A	B	C	D	E	F	G	H	
1分	導入 1 始めのあいさつをする。	T1の発問等① 「それでは、Gさん、あいさつをお願いします。」教員がモデルとなり正しい姿勢や言葉遣いを意識させる。※ホワイトボード側は、視覚的な情報を減らし整理する。								・今日の目標カード ・BE用の目標カード ・タイムタイマー ・机配置シール ・ルールカード1 (グループビンゴ) ・ルールカード2 (役割)
2分	2 今日の目標を知る。 目標カード ※板書①	・Gに注目させる。	・Gに注目させる。	・Gに注目させる。	・Gに注目させる。	・Gに注目させる。	・Gに注目させる。	・号令をかけさせる。T1はGを賞賛する。	・Eに注目させる。	
2分	展開① 3 グループ編成 ルールカード1 (グループビンゴ) ※板書②	T1の発問等② 「それでは、Eさん、今日の目標をホワイトボードに貼って、読んでください。」「他の皆さんは、Eさんが、読み終わった後、みんなで声を合わせて読みましょう。」Eに続いて、他の生徒たちで、今日の目標カード(板書1)「 <u>自分のよいところとこれから努力することをかんがえよう。</u> 」を読ませ、本時の学習内容を確認し、見直しをもたせる。Eや生徒たちの読む活動に対して、声の大きさや協調性などについて、良かったところを賞賛し、自己肯定感を高めさせる。 目標の掲示の際には、ホワイトボードと目標の用紙に緑色のマーキングをして、掲示の支援をしている。自閉症の特性を考慮し、視覚的に情報を整理するために、各活動に関連する教材だけを提示し、不必要な教材を外す支援を行った。  T1の発問等③ 「それでは、今日はグループに分かれて活動しますので、ホワイトボードをみて、2分間で分けてください。ルールカード1をホワイトボードに掲示し、2分間以内に、1グループ ABDE 2グループ CFGHに分かれる。机の配置シールがあることを伝える。タイムタイマーを見せて、時間が経過することへの意識をもたせる。机移動を協力して出来たことなどを賞賛し、自己肯定感を高めさせる。 全生徒共通の活動 ルールカード1を見て、協力して机を移動する。								
2分	4 役割を決める。 ルールカード2 (役割) ※板書③	T1の発問等④ 「次に、各グループ2分間で、司会係を1人決めてください。決まったら、先生に報告にきてください。」タイムタイマーを見せて、時間が経過することへの意識をもたせる。司会係に司会札を渡す。 全生徒共通の活動 「司会係1人を決める。司会係になった生徒が、T1へ係を報告し、役割の札を受け取る。								
6分	展開② 5 課題意識を高める。 ルールカード3 (話し合う内容) ※板書④	T1の発問等⑤ 「これから、目標に向かって、努力するテレビを見てみましょう。」 全生徒共通の活動 テレビ番組『JUVENILE』を視聴し、本時の目標への課題意識を高めさせる。 T1の発問等⑥ テレビの見えにくい生徒は、見える位置に座席を移動するように言葉掛けをする。 T1の発問等⑦ (テレビ終了後)「先生は、自分は、みんなに負けないように練習をしたけれど、結果は駄目でした。そして、落ち込みました。でも、立花さんが「誰よりも頑張っていた。」と言ってくれたときに、涙が出てしまうほど、嬉しかった。自分では、気付かないことを周りの人は、見てくれています。皆さんも今日は、自分のよいところや友だちの良さを考えて、伝え合ってください。 ルールカード3をホワイトボードに掲示し、T1の「よいところとこれから努力すること」を手本として示す。それでは、鉛筆と消しゴムを出して、まず、15分間で自分のよいところとこれから努力するところを考えて書いてください。できた人は、困っている友だちを助けながら考えてください。」								
15分	6 課題解決に向けて	 生徒Eは、よいところについて、はじめは、支援カードを書写したが、「がんばったことがあるかな」と言葉掛けを行うと、自分で「よいところ」を考え書くことができた。  								
5分	終末 7 まとめ	T1の発問等⑧ 生徒たちの発表の内容や話し合っていた時の様子を賞賛する。各生徒の発表内容について、確認をし、賞賛し、お互いを認め、これからの生活に生かすように意識を高めさせる。次時の予告をする。								
1分	8 終わりのあいさつをする。	T1の発問等⑨ 「それでは、Aさん、あいさつをお願いします。」 全生徒共通の活動 終わりのあいさつを行い、学習の終わりを意識する。 ・号令をかける。T1は、Aを賞賛する。 ・Aに注目する。 ・Aに注目する。 ・Aに注目する。 ・Aに注目する。 ・Aに注目する。 ・Aに注目する。 ・Aに注目する。								

ク 検証授業Ⅰの成果と課題

検証授業Ⅰの成果と課題は、「実態把握表と指導目標・支援内容表」を活用した主体的に活動する態度をはぐくむ学習指導・学習支援についての内容に関する分析と考察によるものである。

(7) 成果

- ・ 生徒 E に関して、「実態把握表と指導目標・支援内容表」からの分析をもとに、視覚支援教材として支援カードを使用した。この支援カードの使用により、生徒 E が自ら自分の良いところを考えて、文章で表現するという主体的な活動を導き出すことができた。
- ・ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」の指導目標に、「児童生徒が得意とする活動を繰り返し行い」という表記をしている。生徒 E が得意とする「身体の動き」にかかわるホワイトボードへの掲示や机移動などの活動を取り入れたことで、学習活動に対して、主体的に活動しようとする意欲を導き出すことができた。この指導目標は適切であったと考える。
- ・ 本時は、「自分のよいところ」という抽象的な事象に対するイメージをもつという学習目標であった。イメージをするということは、自閉症の特性上、難しい課題の1つである。「実態把握表と指導目標・支援内容表」による実態把握をもとに、生徒 E に対する支援として、視覚支援教材の活用と言葉掛けによる賞賛が適切であると分析できた。生徒 E は、初めは、「自分のよいところは、どこですか？」という教員の質問では、文章で表現することはできなかった。しかし、生徒 E に対する言葉掛けを「がんばったことは、何ですか？」と変えることにより、文章で表現することができた。これは、「実態把握表と指導目標・支援内容表」による分析が根拠となった。
- ・ 生徒 E の全体像を「実態把握表と指導目標・支援内容表」のレーダーチャートから把握し、生徒 E の「自立活動」の6区分の「人間関係の形成」に課題があることがわかった。これにより、生徒 E と接する際は、生徒 E の言動から十分に意思をつかまなければならないと事前に予想し、学習計画を立てる根拠とした。

(4) 課題

- ・ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」に表記している「指導目標」と「支援内容」が、段階別になっていないために、「指導目標」と「支援内容」を対応させることが難しかった。この「指導目標」と「支援内容」を段階毎に分けて対応させていかなければならない。
- ・ 本時の中で机移動の活動をする場面があり、生徒 E は、学習計画において想定していた時間をオーバーしていた。これは、「環境の把握」の課題となるが、「実態把握表と指導目標・支援内容表」の支援内容に、机の配置を理解しやすくするためにシールを貼るなどの視覚支援を行うというような具体的な表記をする必要がある。
- ・ 初めて特別支援教育に携わる支援者が、「実態把握表と指導目標・支援内容表」を使用することを想定した場合、「およその必要な発達の段階の力」を表記することが適切であるかどうかの検討を行わなければならない。

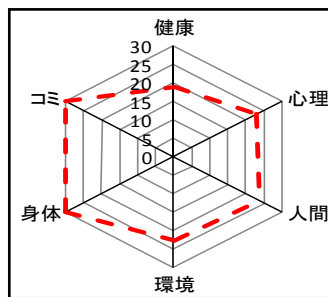
(2) 検証授業Ⅱの実際

ア 学級担任による実態把握

検証授業Ⅰを実施するにあたり、まず、事前に学級担任が「実態把握表と指導目標・支援内容表」を使って、生徒 a の実態把握を行う。

イ 生徒 a のレーダーチャートと分析

対象生徒のレーダーチャートが、資料⑨である。生徒 a の全体像として特徴的なことは、「身体の動き」「コミュニケーション」については、指導目標③段階まで達成しているが、他の項目に関して課題があることである。「身体の動き」の分析から、作業に対する力はあることがわかる。さらに、生徒 a の学習指導・学習支援の方策の手立てについて、細かく分析していくと、「コミュニケーション」の項目から、相手をしっかり見る力や二語文でのやりとり等、相手とやりとりをする力はあることがわかる。また、「心理的な安定」「人間関係の形成」の分析から、初めて会う人に対する不安感があるのではないかと予想される。そのため、生徒 a の内面への支援を行えば、生徒 a のもつコミュニケーションの手段を発揮できるのではないかと考えた。



【資料⑨：レーダーチャートに見る対象生徒 a の全体像】

レーダーチャート内の「健康～コミ」の表記	
健康：健康(健康の保持)	心理：気持ちなどの内面(心理的な安定)
人間：人とかかわり(人間関係の形成)	環境：場面や状況などを把握する力(環境の把握)
身体：からだの動き(身体の動き)	コミ：人とかかわるための手段(コミュニケーション)

ウ 授業の概要

高等部 1～3 年 （通常学級・重複学級） 各教科等を合わせた指導「作業学習」

【単元名】

「サービス・メンテナンス作業」

【検証授業Ⅰの共通目標】

- あいさつや作業中のマナーを身に付けることができる。 【関心・意欲・態度】
- 主体的に作業を行うことができる。 【関心・意欲・態度】
- 清掃作業を実際の教室で行うができる。 【思考・判断・表現】
- 清掃作業の基本を習得することができる。 【技能】
- 作業の工程の見通しをもつことができる。 【知識・理解】

【本時の授業仮説】

本単元の目標達成に向けて、「自立活動」の視点を取り入れた指導・支援を行えば、自閉症のある生徒が、主体的に作業を行うことができるであろう。

本時の指導にあたっては、「実態把握表と指導目標・支援内容表」で実態把握をし、学習指導計画を立てた。「生徒の主体的な態度をはぐくむために、自閉症のある生徒を対象に自立活動の視点を取り入れた学習指導・学習支援の在り方について」の第2回検証となる。清掃の基本技術の習得から段階毎に取り組んできており、本時は教室清掃への応用に入っている。

【資料⑩：対象生徒 a に関する本時の目標と「自立活動」における支援内容】

○ 検証授業Ⅱの指導目標・支援内容の分析と検討の方法

「実態把握表と指導目標・支援内容表」の指導目標・支援内容③段階では、「児童生徒に
応じた支援を受けて自立していく段階」としている。自傷行為、他傷行為が見られる等の
分析から、生徒 a の主体的な態度を導き出すためには、生徒 a が情緒の安定を保てるよう
な支援を行うことが重要である。生徒 a は、「コミュニケーション」「身体の動き」のレー
ダーチャートの結果が高いことから、生徒 a の作業技術に対して賞賛を行い、T1 との信
頼関係づくりが、目標達成に向けて重要な視点となると考える。

オ 検証授業Ⅱの様子

※ページ数に関しては、本検証授業Ⅱの学習指導案のページ数を示す支援。

※ページ数に開いては、本検証授業Ⅱの学習指導案のページ数を示す支援。		指導上の留意点		
時間	学習内容及び学習活動	生徒 a	生徒 a 以外の生徒	準備
20分 10:40~	授業開始前 受付	・ 出席簿に受付を行う必要がある場合は、T2 が書く場所の支援を行う。 ・ 席を選び着席するが、入室が難しい場合は、廊下入り口付近で T2 と説明を聞く。 → 初めての T1 の授業に入れるようにする支援として、1週間前に「T1 の写真カード」を学級担任から見せる支援を行う。→ p5 11「本時の支援④、⑤」 ・ 導入では、T1 が全体リーダーのため、T2 が生徒 a の支援を行う。リーダーの生徒に注目させる。呼名されたら、T1 と向き合い、あいさつをする。その際に、あいさつの仕方(T1 の顔を見るなど)T1 が確認をする。 ・ T1 の授業を初めて受けるため、混乱がある場合は、T2 がそばにいて気持ちが落ち着くまで、活動へ移ることを待つ。→ p5「本時の支援④、⑤、⑥」 ・ 生徒 a が、忘れ物の確認などについて、T1 へ伝えることが難しい場合は、T2 と一緒に答える。→ p6「本時の支援⑥」	・ 出席簿に受付を行う。 ・ あいさつは、リーダーの生徒が行う。 ・ 出席は、T1 が、リーダーの生徒を呼名し、その後、リーダーの生徒が他の生徒の出席をとる。呼名された生徒は、T1 と向き合いあいさつをする。あいさつの仕方が身に付いていない生徒に対しては、T1 が手本を示す。 ・ T1 の質問に対して、自分達で忘れ物などをしっかり確認し、有無を伝える。 ・ 活動内容等がわからない場合は、生徒同士で確認する。 ・ 展開④から展開⑤まで、教員配付用の計画表をもとに、Aグループ担当教員が支援を行う。	・ 「T1 写真カード」 ・ 「メンテナンスコース出席簿」 ・ 「板書カード」 ・ 「高等部作業学習ファイル」
	1 はじめの会 (A,B,Cグループ合同) (1) あいさつ、出席 (2) T1 が確認する内容 ① 体調 ② ハンカチ・タオル ③ 服装 ④ 帽子 ⑤ 水分を摂りましょう。	T1 の発問など④ 「服装は、どうですか？暑い人は、作業をして暑くなったら、しっかり水分補給をしましょう。」→生徒 a に関して、言葉掛けにより服装、水分補給を意識させる。→ p4「本時の支援②」		
	2 ホワイトボードの板書のほか、本時の「目標」を知る。	T1 の発問など④ 「今日の目標を読んでください。」と言って生徒に読ませる。 板書④ 「1 あいさつと作業中のマナーを身に付けよう。2 時間内に作業を終わらせよう。3 作業が終わったら、報告しよう。」板書④を生徒に読ませた後→「高等部作業学習ファイル」に、目標を書いてください。』		
	3 本日の活動計画について ・ 板書のグループ編成と担当教員と作業内容を知る。	T1 の発問など④ 板書④「p16 参照」 T1 が、ホワイトボードを見ながら、確認する C グループには、『アビリンピックはいつですか？』と問い、アビリンピック大会の意識を高めさせる。『作業場所を「高等部作業学習ファイル」に書いてください。』※教室清掃の意ふきについては、前時までの生徒の作業技術習得によっては、行わない場合もある。その際は、「意ふきを行いません。」と伝える。 ・ T2 は、必要があれば、生徒 a が見通しをもてるように「高等部作業学習ファイル」を通して説明する。→ p6「本時の支援④、⑤」 T1 の発問など④ 『退室の際は、しっかり「失礼しました。」と挨拶をしましょう。』 ・ 生徒 a は、T1 と最後に退室する。1対1で退室の際の挨拶の確認を行う。T1 は、生徒 a が退室などがうまくできたことを賞賛し支援する。→ p6「本時の支援⑥」		
4 グループ毎に各教室へ移動				
10分	展開① (以下、Bグループのみ表記) 5 作業の準備・移動 (1) 清掃用具の準備、確認 ※ 道具に関しては、備考欄参照 (2) 清掃場所への移動 B: たいよう棟3階の高等部2年5、6組教室	・ 展開①から、生徒 a を T1 が支援する。初めての一緒に学習するため、困ったことがあったら T1 に伝えるように生徒 a に伝え安心感をもたせる。→ p5「本時の支援④、⑤」 ・ 生徒 a が準備物などを思い出せない場合は、T1 が前時までの学習の準備の様子を、質問したり、「生徒 a への道具準備カード」や他の生徒の様子を見たりするように支援する。生徒 a が倉庫に入れない場合は、他の生徒から道具を受け取り、カートの乗せるように言葉掛けをする。 ・ 自在ぼうきやモップなどの準備を通して、いろんな感触や刺激になれるようにする。生徒 a が感触を拒否する場合は、T1 が一緒に準備などを行い、道具などに少しずつ触れるように支援する。→ p7「本時の支援④、⑤」 ・ 移動の際は、生徒 a が今後一人で移動できるようにするために、「みんなの後ろから行って、道を覚えていこうね。」と言葉掛けをする。→ p7「本時の支援④」 ・ 清掃に関しては、終了時刻を生徒 d e から聞いて、決められた時間まで活動を行い、運動量を確保することも支援の視点とする。→ p4「本時の支援④、⑤」 ・ 一人で清掃できた活動を賞賛し自信をもたせ、主体的に活動できるように、賞賛を中心とした言葉掛けの支援を行う。→ p6「本時の支援⑥」 ・ 清掃に関しては、混乱している場合は、「生徒 a への作業手順支援カード」を提示し、これまでの活動を思い出させていく。→ p5 6「本時の支援④、⑤」 ・ 報告に関しては、生徒 a の T1 への不慣れな気持ちからくる緊張感や不安があることを考慮し、生徒 a が自らできない場合は、「報告しましょう。」と言葉掛けを行い、報告できたことをしっかり賞賛する。→ p6「本時の支援⑥」 ・ 片付けすることに混乱が見られる場合の支援として、生徒 a が倉庫に入れないときは、他の生徒の片付ける場所などを見るように言葉掛けを行う。→ p6「本時の支援⑥」 ・ T1 が生徒 a の移動に関して、途中で混乱する場合は、メンテナンス室への移動を言葉掛けするなどの支援を行う。→ p6「本時の支援⑥」	T1 の発問など④ T1 が、作業終了時刻を「作業終了時間カード」に書き込み、生徒 e に渡し生徒 d にも伝える。生徒 d が、生徒 a を含む他の生徒にも伝えるように、生徒 d に依頼する。 2 回目清掃も同様 ※清掃Ⅰ終了予想時刻 11時35分、清掃Ⅱ終了予想時刻 11時50分。 T1 が、時間によっては、意ふきを分担して行うように生徒 e, d に伝える。 ・ 生徒たちが、報告を忘れていた際は、T1 が言葉掛けをする。 ・ 各生徒は、「高等部作業学習ファイル」に本時を振り返り反省を記入する。 ・ 各担当教員は、生徒の記入した「高等部作業学習」に賞賛をしながら評価を記入する。』	・ 「生徒 a への道具準備カード」(めくりカード式) ・ Q カート 1 台に積み込む道具(以下) ・ 自在ぼうき(5)、ちりとり(1)、モップ(5)、バケツ(5)、そうきん(3)、ガムテープ(1)、ゴミ袋(1) (1)、マジック(1)、スポンジ(1)、モップホルダー(5)、意ふきホルダー(5)、意ふきモップ(5)、スクイジー(5)、清掃表示看板(1) ・ 「作業終了時間カード」 ・ 「生徒 a への作業手順カード」(めくりカード式)
25分	(3) 教室清掃(Ⅰ) 高等部教室2年5組教室 ○ 机の移動・ぼうき掃き ・ モップがけ・現状復帰 ・ 机ふき・意ふき			
20分	展開② 6 教室清掃(Ⅱ) 高等部教室2年5組教室 (1) 机の移動・ぼうき掃き・モップがけ・現状復帰・机ふき・意ふき (2) 清掃終了確認→報告 (3) メンテナンス室への移動 (4) 用具の片付けとモップの洗濯	T1 の発問など④ 『それでは、「高等部作業学習ファイル」に今日の反省を書き、書き終わったら、担当の先生に見てもらいましょう。』 ・ 生徒 a が振り返ることが難しい場合は、「生徒 a への作業手順支援カード」を見ながら振り返るように支援する。 T1 は、生徒のよかったところを賞賛し、生徒 a の自己肯定感を高めて、自信をもたせる。→ p6「本時の支援⑥」 T1 の発問など④ 「今回は、教室清掃、トイレ清掃、アビリンピックの練習をします。服装などの忘れものがないようにしてください。』		
5分				
5分				
14分	終了 7 まとめ(全体リーダー-T1) (1) 本日の学習内容及び反省・報告			
1分	(2) 次回の予告	T1 の発問など④ 「しっかり活動をしたので、きっと給食もおいしく食べられるでしょうね。」 ・ T1 の発問など④に関しては、生徒 a への偏食についての課題として、次時が給食であるために、支援として入れている。→ p4「本時の支援④」		
	8 終わりのあいさつをする。	・ T2 の支援のもと、リーダーの生徒に注目させる。	・ リーダーの生徒が号令をかける。 ・ リーダー以外の生徒は、リーダーの生徒に注目する。	
授業終了後	メンテナンス室退室	T1 の発問など④ T1 は、生徒たちが退室する際のマナーを見ながら、退室の際のマナーを支援を行いながら、「お疲れ様でした。」と言葉掛けを行う。 ・ 生徒 a に、初めての T1 と学習したことなどを振り返り、賞賛を行う。	・ 退室の際に、T1 の顔を見て、T1 に関心できるようにはっきりと「失礼しました。」と伝える。	

カ 検証授業Ⅱの成果と課題

検証授業Ⅱの成果と課題は、「実態把握表と指導目標・支援内容表」を活用した主体的に活動する態度をはぐくむ学習指導・学習支援についての内容に関する分析と考察によるものである。

(7) 成果

- ・ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」の分析から、初めて接する T1 に対して、情緒が不安定になる可能性があると事前に分析した。T1 の顔写真カードの視覚支援教材について、検証授業の 1 週間前に学級担任から生徒 a に写真カードを見せる支援を行ってもらった。この「実態把握表と指導目標・支援内容表」の分析からの事前の支援が、生徒 a が初めて接する T1 に対して、日頃みられる自傷行為がなく、また活動に対して混乱することなく主体的に活動を行うことができた要因の 1 つであると考ええる。
- ・ 情緒面の配慮は、教員の主観になることがあるが、「実態把握表と指導目標・支援内容表」からの実態把握を根拠に、他の教員に対して、生徒 a の情緒面の配慮に対する共通理解をもつことができた。
- ・ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」の「指導目標」「支援内容」を①～③段階に分けたことにより、段階的にきめ細かな学習指導・学習支援を行うことができた。
- ・ 生徒 a の全体像を「実態把握表と指導目標・支援内容表」のレーダーチャートから把握し、生徒 E の「自立活動」の 6 区分における課題として、「心理的な安定」「人関係の形成」であることがわかった。この生徒 a への「わからないことを質問してください。」との言葉掛けが、生徒 a への情緒の安定につながったと考える。
- ・ 「自立活動」の視点を取り入れた「実態把握表と指導目標・支援内容表」を活用することにより、生徒 a が自分で考える主体的な活動を導き出すことができた。

(4) 課題

- ・ レーダーチャートの結果から「環境の把握」の結果が低いことを T1 が終始、学習指導・学習支援の視点としてもっておかなければならなかった。これは、生徒 a が教室から廊下に出た際に躊躇した動きがあったことからである。「環境の把握」に関する「指導目標」「支援内容」に関して、具体的に表記していかなければならない。
- ・ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」に示す②段階の児童生徒に対しては、自分で判断した結果に関係なく、支援者がその児童生徒の主体性を認めることが、大切な支援の視点であることがわかった。今後は、「実態把握表と指導目標・支援内容表」の精度を高めるために、②段階の児童生徒に対する表記の検討と改善を行っていく。
- ・ 初めて特別支援教育に携わる方々が、自閉症の特性、発達の段階、「自立活動」の視点を取り入れた「実態把握表と指導目標・支援内容表」を活用できるようにしなければならない。そのためには、具体的な活動場面と「指導目標」「支援内容」を関連付けて表記していく必要がある。

(3) モニタリングによる「実態把握表と指導目標・支援内容表」の検証

ア 「実態把握表と指導目標・支援内容表」に対するモニターの見集約

「実態把握表と指導目標・支援内容表」に関する表記内容や活用については、モニタリングを行った。モニターの教員 28 名に対して、自立活動の 6 区分に関する質問を行い、意見集約した。資料⑪が、質問事項と意見集約結果である。資料⑫は、各校種の教員にモニタリングを実施し、その対象となった児童生徒数である。

【資料⑪：「実態把握表と指導目標・支援内容表」に関するモニターの意見集約結果】

a 「健康(健康の保持)」について		
(a) 自閉症の特性をおさえられていたか。	・ よい 27名	・ 改善が必要 1名
(b) 「改善が必要」と回答された方の改善案		
・ 「自分の病気の状態を理解し、予防を考えた生活を送ることができる。」の指導目標・支援内容については、分かりやすく明示し、「状態を記録する、予定(通院)を立てる。」等の記載にするとよい。		
b 「気持ちなどの内面(心理的な安定)」		
(a) 自閉症の特性をおさえられていたか。	・ よい 27名	・ 改善が必要 1名
(b) 「改善が必要」と回答された方の改善案		
・ 具体的な場面として、授業中、休み時間、学校行事、集団行動の例があるとよい。		
c 「人とのかかわり(人間関係の形成)」		
(a) 自閉症の特性をおさえられていたか。	・ よい 27名	・ 改善が必要 1名
(b) 「改善が必要」と回答された方の改善案		
・ 「友達と一緒に遊びのルールを意識して、遊ぶことができる。」では、ルールの理解はできると思うが、一緒に遊ぶことは難しいときがある。(対象生徒は、基本的に集団行動を好まない)自分のしたいことをする傾向の表記が欲しい。		
・ 生育歴や家庭環境等を把握することの必要性の記載をした方がよい。		
d 「場面や状況などを把握する力(環境の把握)」		
(a) 自閉症の特性をおさえられていたか。	・ よい 27名	・ 改善が必要 1名
(b) 「改善が必要」と回答された方の改善案		
・ 場面や状況をさらに具体的に記載した方がよい。		
e 「からだの動き(身体の動き)」		
(a) 自閉症の特性をおさえられていたか。	・ よい 27名	・ 改善が必要 1名
(b) 「改善が必要」と回答された方の改善案		
・ ボール運動(キャッチボール、サッカー、バドミントン、テニス等)、階段昇降、自転車運転などのからだの動きも具体例で記載してもいいのではないかな。		
f 「人とかかわるための手段(コミュニケーション)」		
(a) 自閉症の特性をおさえられていたか。	・ よい 25名	・ 改善が必要 3名
(b) 「改善が必要」と回答された方の改善案		
・ 判断に難しい質問があった。「言葉や身振り、支援機器などを使って、場に応じたあいさつができ敬語で話することができる。」という項目に該当しない生徒もあり、その対応を検討して欲しい。		
・ 補助具を使う前提となっているが、児童生徒によっては自力歩行できる場合もある。		
・ 常同運動や反復運動の用語をわかりやすく記載した方がよい。		
(イ) 「実態把握表と指導目標・支援内容表」のチェックに要した平均時間 約35分		
(ウ) その他 (以下 ○: よい点 ●: 改善点)		
○ 指導目標・支援内容が、発達の段階をおさえられており、わかりやすい。		
○ 特性をおさえられていてよいと思う。		
○ 「実態把握と指導目標・支援内容表」を活用したことにより生徒の課題をとらえることができた。		
○ 自閉症以外の障がいのある児童生徒にも活用できると感じた。		
○ 他の障がい種についても活用できることを期待する。		
○ 項目等が詳細になっており細やかさを感じた。		
● 場の状況を具体的に示すと回答がしやすい。		
● 記入方法について、各項の達成されていることを入力できるとよい。重度の知的障がいのある児童生徒は、①・②段階の場合が多く、この「実態把握表と指導目標・支援内容表」の③まで達成している項目が少ないので入力方法の検討が必要である。		

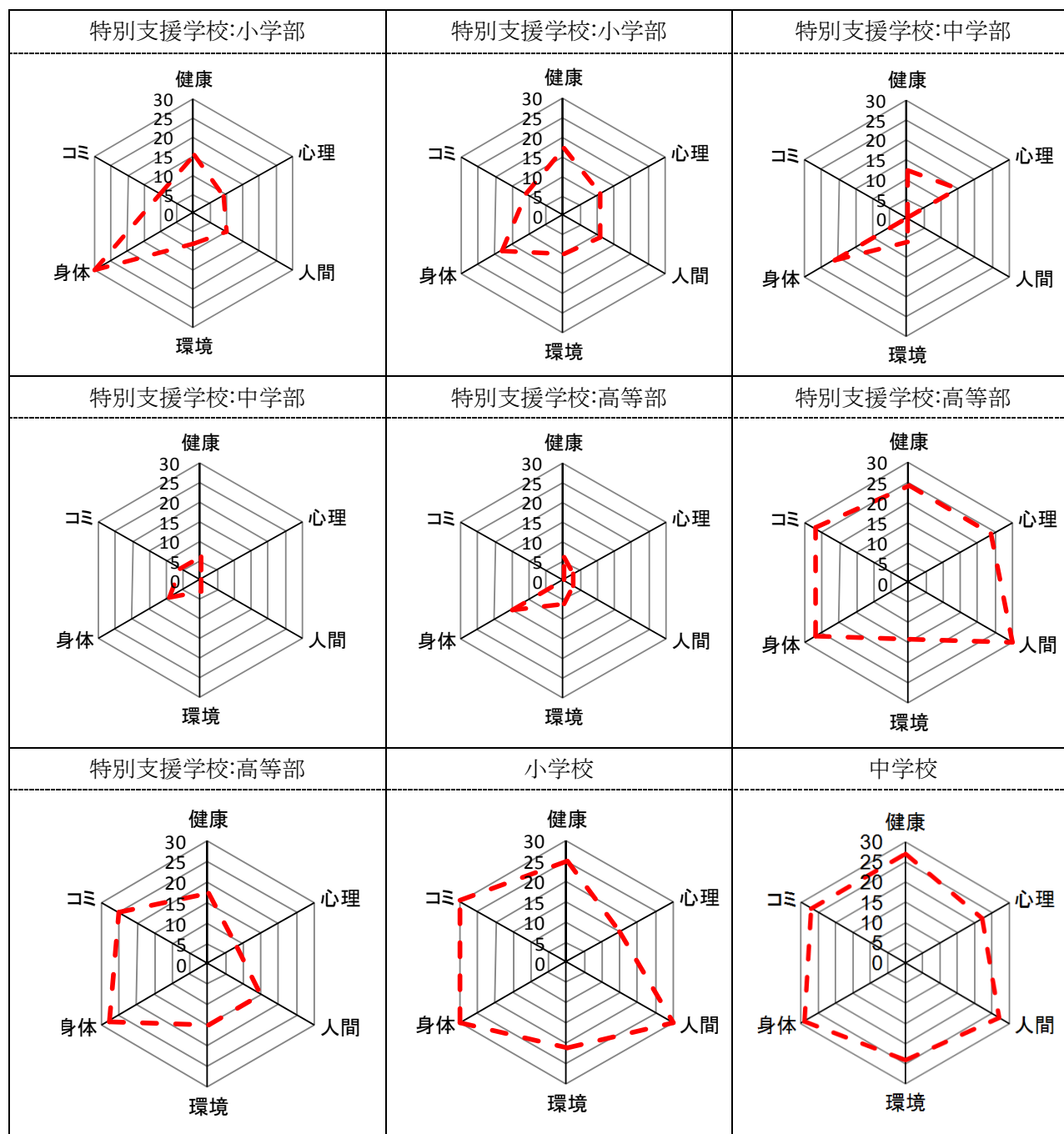
【資料⑫：モニタリングをした児童生徒数】

特別支援学校			小学校（3名）	中学校（1名）
小学部（7名）	中学部（7名）	高等部（10名）		

イ モニタリングによるレーダーチャートの結果(一部抜粋)

レーダーチャートの結果より、自閉症という障がい名は同じであるが、実態は様々であることがわかる。そのため、「実態把握表と指導目標・支援内容表」で児童生徒の実態把握を行い、各段階の「指導目標・支援内容」を分析し、きめ細かな指導・支援を行っていくことが大切であるといえる。(資料⑬)

【資料⑬：モニタリングによるレーダーチャートの結果（一部抜粋）】



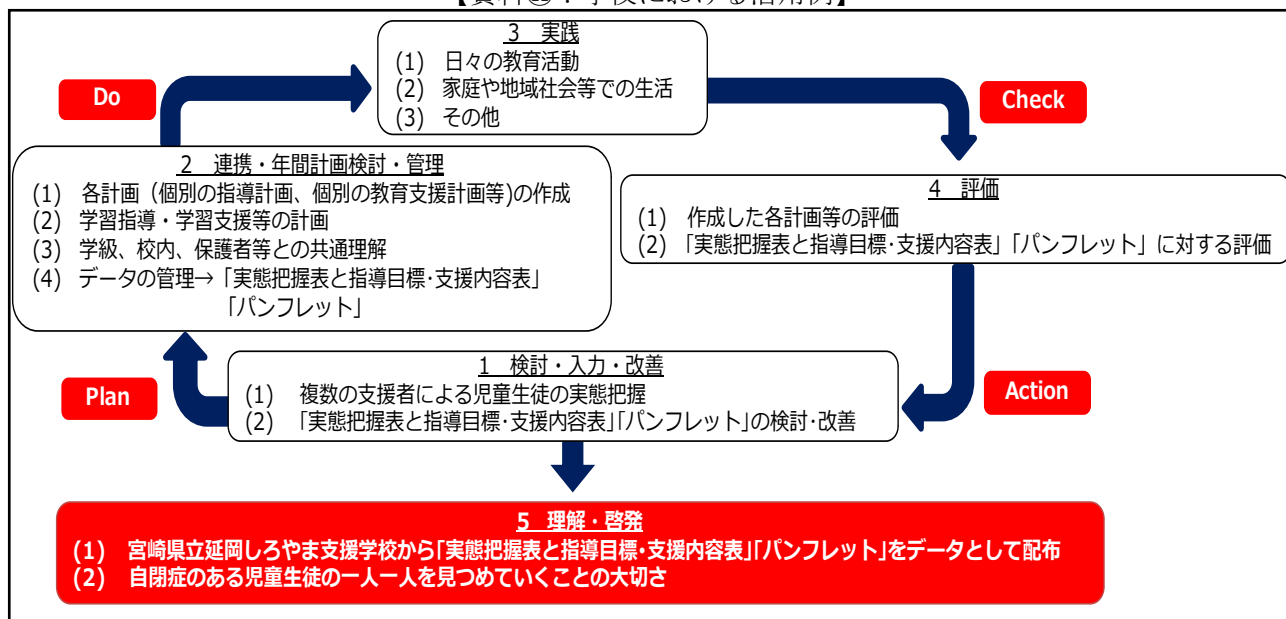
- (4) 検証授業とモニタリングによる「実態把握表と指導目標・支援内容表」の改善
検証授業とモニターの意見を参考にして、下記の3点を改善した。

- ・ 「実態把握表と指導目標・支援内容表」に記載している「長期目標」の達成に向けた「指導目標」と「支援内容」を3段階に分けて対応させた。
- ・ 場面や状況に関する表記を、誰もが活用できるように、具体的な表記にした。
- ・ パンフレットに、支援者が児童生徒の引き継ぎ事項等を記載し、個別の指導計画等の作成資料とするために、「児童生徒の実態に応じて記載」という欄を設定した。

5 「実態把握表と指導目標・支援内容表」の活用（学校における活用例）（資料⑭）

資料⑭は、今後、「実態把握表と指導目標・支援内容表」の活用を広げるために、「学校における活用例」として示したものである。

【資料⑭：学校における活用例】



VIII 研究の成果と課題

1 成果

- 「自閉症のある生徒の主体的に活動する態度をはぐくむ学習支援」を目指して、「自立活動」の視点を取り入れた指導目標・支援内容の柱を3段階に分けて設定した。これにより、自閉症のある生徒に対して、より正確な実態把握ができ、主体的に活動する態度をはぐくむための個々の特性に応じたきめ細かな学習支援を行うことができた。
- 「実態把握表と指導目標・支援内容表」では、指導目標・支援内容の分析結果をレーダーチャートに表し、児童生徒の特徴を「自立活動」の6区分の視点からすぐに捉えることができるようにしたため、児童生徒の学習支援に有効に活用できた。
- 当初、「実態把握表と指導目標・支援内容表」は、特別支援学校での活用を目指していた。しかし、今後の特別支援教育の充実に向けて、小・中学校等用の「実態把握表と指導目標表」と別冊のパンフレットとして、写真やイラスト等で具体的な支援内容を記載しパンフレットの作成に着手し、初めて特別支援教育に携わる方々でも活用できるものにすることを目指すことにした。

2 課題

- 「実態把握表と指導目標・支援内容表」では、「およその必要な発達の段階の力」の欄を設定し、自閉症のある児童生徒の学習支援に「発達の段階」を関連付けていけるように、研究を進めてきた。しかし、「発達の段階」を記載するには、さらに細かな分析が必要であり、今後、指導目標に応じた「発達の段階」の記載をすることが課題である。

《引用文献・参考文献》

「特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 高等部学習指導要領」	文部科学省（平成21年）
「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」	文部科学省（平成21年）
「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）」	文部科学省（平成21年）
「第二次宮崎県教育振興基本計画」	宮崎県・宮崎県教育委員会（平成23年）
「特別支援教育ガイドブック」	宮崎県教育委員会 特別支援教育室（平成20年）
「自立活動学習内容要素表」	長崎自立活動研究会（平成22年）
「自閉症児の発達単元267」	佐々木正美／青山 均監訳 岩崎学術出版社（平成元年）